

## 令和元年度第3回常務理事会議事録

日 時： 令和元年11月5日（火）15：00～17：05

会 場： 日本産科婦人科学会事務局会議室

理 事 長：木村 正

副理事長：青木 大輔、加藤 聖子

常務理事：池田 智明、大須賀 穰、岡本 愛光、工藤 美樹、関沢 明彦、万代 昌紀、  
三上 幹男、八重樫 伸生

監 事：藤井 知行

特任理事：海野 信也、宮城 悦子

顧 問：吉村 泰典

理事会内委員会委員長：生水 真紀夫、杉野 法広、竹下 俊行、永瀬 智、渡利 英道

総会議長：光田 信明

総会副議長：久具 宏司、小谷 友美

幹 事 長：阪埜 浩司

副幹事長：矢内原 臨

幹 事：岩佐 武、上田 豊、馬詰 武、織田 克利、木村 文則、桑原 慶充、小出 馨子、  
小松 宏彰、近藤 英治、佐藤 健二、田中 博明、寺尾 泰久、土井 宏太郎、  
徳永 英樹、平田 英司、松岡 歩、矢幡 秀昭

事 務 局：吉田 隆人、加藤 大輔、青野 秀雄

15：00 理事長、副理事長、常務理事の全員が出席し、定足数に達しているため、木村正理事長が開会を宣言した。議事録署名人には、理事長、監事の計2名を選任し、これを承認した。続いて、令和元年10月4日に開催された令和元年度第2回常務理事会議事録を承認した。また理事長から、議事録内容の情報管理についての注意喚起があった。

### I. 業務担当理事報告並びに関連協議事項

#### 1) 総 務（青木大輔副理事長）

〔I. 本会関係〕

(1) 会員の動向 特になし

(2) 岡山県産科婦人科学会より、名誉会員特例措置申請書（退会希望）を受領した。〔資料：総務1〕  
本件について特に異議はなく、全会一致で原案通り承認された。

(3) 専門委員会

(イ) 生殖・内分泌委員会 特になし

(ロ) 婦人科腫瘍委員会 特になし

(ハ) 周産期委員会

①フレカイニドの添付文書からの妊婦禁忌はずしの要望について [資料：総務2, 2-1]  
本件について特に異議はなく、全会一致で原案通り承認された。

②死因究明等の推進に関する研究について（死亡診断書の改訂） [資料：総務3]

池田智明委員長「妊産婦死亡統計が過少表示されており、これを改善するために死亡診断書に、妊娠

チェック欄を入れることを要望してきたが、厚労省研究班の研究報告書で妊娠チェック欄を入れることが盛り込まれたことの報告である。」

③厚生労働省医薬・生活衛生局から、「子宮頸管熟化剤等（プロウペス腔用剤）の添付文書の記載に関する意見書提出」について、正式の依頼書を受領した。本件は、第2回理事会で承認された意見書と同内容で提出した。 [資料：総務4-1, 4-2]

池田智明委員長「文書同意は不要とすること、モニタリングを12時間連続で行うこと、について記載することを提出した。」

## (二) 女性ヘルスケア委員会

### ①書籍頒布状況（2019年10月31日現在）

	10/4 常務理事会 報告	～10月31日	合計
低用量経口避妊薬・低エストロゲンプロゲステロン 配合薬ガイドライン 2015 書籍版	5,927	35	5,962
ホルモン補充療法ガイドライン 2017 書籍版	3,187	24	3,211
ホルモン補充療法ガイドライン 2017 書籍版+ 電子版用 ID・PW 付 うちダウンロード済み	1,047	7	1,054
女性アスリートのヘルスケアに関する管理指針	936	10	946

## 〔II. 官庁関係〕

### (1) 厚生労働省からの会員周知依頼について

#### ①本会ホームページに掲載し、会員に周知したい。

部署	内容	資料
子ども家庭局母子保健課	令和元年度乳幼児突然死症候群（SIDS）対策強化月間の実施について	総務5-1
子ども家庭局母子保健課	妊婦健康診査の公費負担の状況にかかる調査結果について	総務5-2

本件について特に異議はなく、全会一致で原案通り承認された。

#### ②本会ホームページに掲載し、会員に周知した

部署	内容	資料
子ども家庭局母子保健課	令和元年台風19号の災害による被災者に係る妊婦健康診査等の各種母子保健サービスの取扱いについて／災害時の母子保健対策に関するマニュアル等について／妊産婦及び乳幼児等に対	総務6-1

	する支援のポイントについて	
--	---------------	--

### 〔Ⅲ. 関連団体〕

#### (1) 日本医学会、日本医学会連合

①日本医学会からの会員周知依頼に基づき、本会ホームページに掲載し会員に周知したい

原依頼部署	内容	資料
厚生労働省医薬・生活衛生局監視指導・麻薬対策課	販売情報提供活動監視事業について	総務 7-1
厚生労働省医薬・生活衛生局医療機器審査管理課ならびに医薬安全対策課	ゲル充填人工乳房及び皮膚拡張器植込み患者等に対する情報提供の徹底について	総務 7-2
厚生労働省医薬・生活衛生局医療機器審査管理課ならびに医薬安全対策課	薬剤溶出型冠動脈ステント及び薬剤塗布型冠血管向けバルーン拡張式血管形成術用カテーテルに係る使用上の注意の改訂について	総務 7-3
厚生労働省医薬・生活衛生局医療機器審査管理課ならびに医薬安全対策課	「医療機器製造販売後リスク管理計画の策定について」の一部改正について	総務 7-4
厚生労働省医薬・生活衛生局医薬安全対策課	医療機器の添付文書の記載例について(その9)	総務 7-5

本件について特に異議はなく、全会一致で原案通り承認された。

②日本医学会連合から、診療ガイドライン策定にかかる企業等との関係透明化に関する要請が送られてきた。これについて、診療ガイドライン運営委員会およびコンプライアンス委員会に検討を依頼した。  
[資料：総務 7-6]

#### (2) 日本医療機能評価機構

日本医療機能評価機構より、産科医療補償制度再発防止委員会への委員推薦依頼を受領した。  
[資料：総務 8]

**木村正理事長**「この委員会の委員の推薦の仕組みがはっきりしていなかったため、今回から推薦依頼を出してもらうようにした。本会からは慶応義塾大学の田中守先生を推薦したい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で原案通り承認された。

#### (3) 福島県

福島県立医科大学、福島県産婦人科医会および福島県産科婦人科学会から、「福島県の妊産婦に対する令和元年度県民健康調査」の実施にあたっての協力依頼を受領した。これまでと同様、本会ホームページに掲載して会員に周知したい。  
[資料：総務 8-1]

本件について特に異議はなく、全会一致で原案通り承認された。

#### (4) 日本子ども虐待防止学会

日本子ども虐待防止学会より、「子ども死亡事例全数検証制度(チャイルド・デス・レビュー:CDR)の創設に関する要望書」への賛同依頼を受領した。  
[資料：総務 8-2, 8-3, 8-4]

**光田信明議長**「日本子ども虐待防止学会はこの領域での専門的な研究を行っている団体である。」

本件について特に異議はなく、全会一致で原案通り承認された。

(5) 健やか親子 21 推進協議会

健やか親子 21 推進協議会テーマグループ 1 より、本会と共同で「Baby プラス」の新規コンテンツ作成に取り組みたいとの打診を受けた。コンテンツ内容は「妊娠中・育児中の喫煙を減らす」であり、近々に正式な依頼書を受領する予定ある。

**池田智明理事**「今年は妊婦の禁煙をテーマにしており、Baby プラスを利用して進めたい。」

(6) 女性アスリート健康支援委員会

女性アスリート健康支援委員会より、次期代表候補者 2 名（内 1 名は理事を兼務）の推薦依頼を受領した。任期は、令和 2 年定時社員総会（6 月開催予定）終結時からの 2 年間である。

[資料：総務 8-5]

**木村正理事長**「代表候補者（理事）に藤井知行先生、代表候補者に青木大輔先生を推薦したい。2 人ともに留任となる。」

本件について特に異議はなく、全会一致で原案通り承認された。

(7) 国立がん研究センターがん対策情報センター

国立がん研究センターがん対策情報センターより、がん情報サービスへの査読者推薦依頼を受領した。査読期間は、本年 11 月～12 月中の 2 週間程度とのことである。

[資料：総務 8-6]

**青木大輔副理事長**「女性ヘルスケア委員会に推薦をお願いしたい。」

**加藤聖子委員長**「了解した。ただ医師と看護師の推薦を依頼されているが、看護師はどうするか。」

**青木大輔副理事長**「女性ヘルスケア委員会として名前を上げられる方がいればお願いしたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で原案通り承認された。

〔IV. その他〕

(1) 難聴対策推進議員連盟から、同議連がわが国の難聴対策の指針「ジャパンヒアリングビジョン（仮称）」として政府に提言を行うにあたり、関係団体に意見を求めてきた。周産期委員会および倫理委員会で検討の結果、「特に意見なし」で回答した。

[資料：総務 9]

(2) 映画『ママをやめてもいいですか！？』のプロデューサーからこの映画への後援依頼があった。）本会はこのプロデューサーが作成した平成 22 年の映画『生まれる』に後援を行っており、経済的負担もないことから、内容を確認の上、後援を応諾した。

[資料：総務 10]

(3) 女性アスリート健康支援委員会

女性アスリート健康支援委員会より、シンポジウム「Female Athlete Conference 2020～女子選手のヘルスケアを考える」への後援名義使用依頼を受領した。例年の依頼であり、また経済的負担はない。

[資料：総務 11]

本件について特に異議はなく、全会一致で原案通り承認された。

2) 会 計（池田智明理事） 特になし

### 3) 学 術 (大須賀穰理事)

#### (1) 学術委員会

##### ① 会議開催

第3回学術担当理事会	12月6日(金)【予定】
第3回学術委員会	12月6日(金)【予定】
学術奨励賞予備選考委員会	12月6日(金)【予定】

#### (2) 令和元年度学術奨励賞候補者の推薦及び応募状況 (10月31日締切)

生殖医学部門7名、周産期医学部門5名、婦人科腫瘍学部門5名、女性のヘルスケア部門2名、合計19名の推薦ならびに応募があった。

**木村正理事長**「当該年度の応募者のなかで最も優れた人を推薦するという方向性で進んでいるのか。」

**大須賀穰理事**「予備選考委員の先生にはその旨の案内をするが、なるべく各分野から1名は選んでいただきたい、という前期に議論した結論に沿って選考を進めていただきたいと考えている。」

#### (3) 他団体特別賞推薦依頼について

「第16回ヘルシー・ソサエティ賞」の候補者推薦依頼を受けたので、理事および学術委員会委員に候補者の推薦を依頼したが、候補者推薦はなかった。

#### (4) 学術活性化委員会：若手医師を顕彰するためのアンケート回答について

専門研修プログラム基幹施設、医育機関ならびに本会幹事に「本会における若手医師を顕彰するための新規の賞設立に関するアンケート」(10月20日締切)の協力を依頼し、29件の回答があった。

### 4) 編 集 (加藤聖子副理事長)

#### (1) 会議開催

第3回和文誌編集会議 JOGR 編集会議	11月5日(火)【予定】
第3回編集担当理事会	12月6日(金)【予定】

#### (2) 英文機関誌 (JOGR) 投稿状況：2019年10月22日現在

	2017	2018	2019
Pending/Withdrawn	25	43	239
Accepted	256	301	125
Rejected	1117	1212	800
Grand Total	1398	1556	1164

#### (3) 第72回日本産科婦人科学会学術講演会時【編集委員会企画】

演者：加藤聖子、齋藤 滋、Dr. Mike Marsh (BJOG EIC)

なお、Dr. Mike Marshについては、青木大輔第72回学術集会長の好意により海外招待演者の会として参加費については免除できることになった。また、渡航費ならびに宿泊費についてはワイリーの負担でまかなえるものと予定している。

(4) JOGR の契約に関して

本年12月でJOGRにワイリーとの契約が切れるが、1年前までに双方から申し出がなければ自動継続扱いとなる。昨年10月より検討を重ね、今般英和对訳を受領した。 [資料：編集1]

**加藤聖子副理事長**「契約更改は3年毎となり、契約期間終了する場合、他の出版社のオファー金額をワイリーに伝え、もしワイリーがそれより安い金額を提示すればワイリーとの契約が優先されることになる。前回はワイリーは良い条件を提示したので再契約した。」

(5) 和文機関誌との同梱依頼について

カイトーより和文機関誌との同梱依頼が届いた。12月号との同梱を希望されている。

[資料：編集2]

**加藤聖子副理事長**「10月26日からホームページでJOGRが閲覧できなくなっている。原因不明だが、これが続くようだとシステムそのものを考える必要があるかもしれない。次に本年9月6日から政府の方針で日本人の英語表記が変わることになっており、本会の和文誌でこれにどう対応するかを考える必要がある。次回の理事会で協議いただき、表記を変える場合は3月理事会で決定し、第73回学術集会の公募要項に反映させていくことになる。またJOGRについてはワイリーを始め出版業界で現在検討しているので、その方針を聞いて対応したい。さらにJOGRで問題になっているのがAEの不足である。特に周産期領域で不足しており、また特定の人に負担がかかっているAEのなかでも不平等感が出ている。対応策として、AE候補者リストを各大学の教授から出していただき、それをもとに就任をお願いしていきたいと考えている。ご協力をお願いしたい。」

**木村正理事長**「AEについては、現場で活躍している先生方を候補者対象として推薦いただきたい。」

**加藤聖子副理事長**「AEが増えると旅費等の費用も増えるが、選考などで工夫をして対応したい。」

## 5) 渉外 (岡本愛光理事)

(1) 会議開催

第2回渉外委員会	12月6日(金)【予定】
----------	--------------

(2) The 105th Annual Congress of Korean Society of Obstetrics and Gynecology (2019年9月20-21日、於：韓国 ソウル)における日韓台 Exchange Program へ派遣の若手医師による報告について [資料：渉外1]

(3) 2020年10月7-10日、ドイツ ミュンヘンにて開催の63. DGGG-KONGRESS における Exchange Program に本会より木村正理事長、榎本隆之第73回学術集会会長、岡本愛光渉外担当常務理事、および若手医師3名を派遣の予定である。若手医師は会期後2週間、受入施設にて研修の予定である。

(4) FIGO World Congress 2021 (10月24-29日、於:オーストラリア シドニー)におけるJ-K-T Programの開催をFIGOに提案した。 [資料: 渉外2]

(5) The 59th Annual Congress of Taiwan Association of Obstetrics and Gynecology (2020年2月22-23日、於:台湾 台北)における日韓台 Exchange Programに派遣の若手医師による論文作成の為の調査について [資料: 渉外3]

**岡本愛光理事**「J-K-Tで若手医師のセッションがあるのでプロダクトを作ってはどうかという議論が出て、論文を作成することになった。TAOGは産婦人科を選ぶ時の志望動機のアンケート、KSOGは再発卵巣がんのセカンドラインのレジメのアンケートを取るようになる。JSOGは日韓台の不妊のトピックがトピックである。TAOGのアンケートは専門医試験の合格者に、KSOGのアンケートは大学およびがんセンターにメールを送って回答を求めるようにしたい。」

**木村正理事長**「対象を絞ってアンケートを行うということでよいか。」

本件について特に異議はなく、全会一致で原案通り承認された。

**木村正理事長**「JSOGのトピックで、developed country という表現はあまり使わなくなっているの、表現を工夫してほしい。またこれはアンケートを行うのか。」

**桑原慶充幹事**「アンケートではなく、総説を作成する方向で考えている。」

(6) AOFOG Congress 2019 (11月10-14日、於:フィリピン マニラ)について、岡本愛光渉外担当常務理事に代わり、加藤聖子副理事長がAOFOG General Assemblyにて投票権行使、およびFIGO Extraordinary General Meetingに出席の予定である。また、岡井崇名誉会員へのAOFOG Fellowship授与にあたり、万代昌紀理事がCitationを行う予定である。

(7) FIGO 事務局より、FIGO Presidentを装った偽メールについての注意喚起が発信された。

[資料: 渉外4]

(8) 2020年AOFOG Council meeting およびExecutive Board meeting 開催国募集について

[資料: 渉外5]

**岡本愛光理事**「突然にAOFOGから開催国募集の案内が届いた。」

**加藤聖子副理事長**「マニラでも話し合われるので、今回は立候補しなくてもよいのではないか。」

**木村正理事長**「現実問題として来年となると動きにくいので、今回は静観したい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で原案通り承認された。

## 6) 社 保 (万代昌紀理事)

### (1) 会議開催

令和元年度 第2回社保委員会
----------------

11月5日(火)
----------

(2) 日本医師会疑義解釈委員会より、「令和元年11月経過措置移行予定品目(令和2年3月末日 薬価

削除予定)」(31 疑 1636) についての確認依頼を受領し、本会理事、および社保委員による確認結果を回答した。

- (3) 医薬品の適応外事例にかかる保険診療上の取り扱いについて [資料：社保1]  
**万代昌紀理事**「医薬品の使用量などについて適応外使用をしても保険を削られないもののリストを日本医学会で作成するという話かと思う。産婦人科で関係ありそうなものは少ないが、今後、用量の変更をしたい薬品があれば提案できるのではないかと思う。」  
**木村正理事長**「アバスチンなどについて、対応できるのであれば情報収集をお願いしたい。」

## 7) 専門医制度 (八重樫伸生理事)

### (1) 会議開催

専門医委員会 (機構専門医候補者決定会議)	11月7日【予定】
第3回研修システム小委員会	11月26日【予定】
専門医認定申請システムおよび地方学会会員情報管理システムの事務局担当者向け運用説明会	12月13日【予定】

### (2) e-learning 課金決済売り上げについて

2017年10月から2019年9月で合計12,382,200円(2293本×5,400円)である。

### (3) 日本専門医機構

#### ① 会議開催

第1回 2021年度専門医養成数に関する検討協議会 全体会議	11月7日【予定】
第2回 2021年度専門医養成数に関する検討協議会 全体会議	11月21日【予定】

②2020年度に研修を開始する専攻医の日本専門医機構「専攻医登録システム」の登録を開始した(専攻医一次募集 2019年10月15日12時～2019年11月15日12時まで)。[資料：専門医1]  
**藤井知行監事**「必要医師数の計算では医師は全員、臨床をやっているという前提に立っている。基礎系の医師を考慮に入れておらず、日本学術会議も問題視している。このため2035年の必要医師数が見直されることはありえる。」

## 8) 倫理委員会 (三上幹男理事)

### (1) 会議開催

令和元年度第3回着床前診断に関する審査小委員会	10月29日
第16回PGT-Aに関する小委員会	10月31日
令和元年度第3回倫理委員会	11月12日【予定】

### (2) 本会の見解に基づく諸登録 (令和元年9月30日)

- ・ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録：93 研究
- ・体外受精・胚移植の臨床実施に関する登録：613 施設
- ・ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録：613 施設
- ・顕微授精に関する登録：579 施設
- ・医学的適応による未受精卵、胚(受精卵)および卵巣組織の凍結・保存に関する登録：115 施設
- ・提供精子を用いた人工授精に関する登録：12施設

(3) 着床前診断に関する申請・認可について

- ・施設申請147件《承認82施設（うち13施設は条件付）、照会9施設、審査中56施設》
- ・症例申請：896例《承認774例、非承認26例、審査対象外35例、取り下げ5例、照会27例、保留4例、審査中25\*件（\*10/15現在）》（承認774例のうち104例は条件付）

(4) 「臨床研究審査小委員会」報告事項

①久我山病院岩下 光利会員より研究計画変更の申請があった、「脳性麻痺発症および再発防止に関する症例対照研究」について迅速審査を行い、10月2日に審査結果を報告した。

[資料：倫理1]

②埼玉医科大学石原理会員より研究計画変更の申請があった、「日本産科婦人科学会 倫理委員会登録・調査小委員会生殖に関する諸登録事業及び登録情報に基づく研究」について迅速審査を行い、10月3日に審査結果を報告した。

[資料：倫理2]

③日本産科婦人科学会婦人科腫瘍委員会委員長東北大学大学院医学系研究科婦人科学分野八重樫伸生会員より研究計画変更の申請があった、「日本産科婦人科学会婦人科腫瘍委員会 婦人科悪性腫瘍登録事業及び登録情報に基づく研究」について審査を行い、10月22日に審査結果を報告した。

[資料：倫理3]

④大阪大学大学院医学系研究科 産科学婦人科学上田 豊会員より日本産科婦人科学会婦人科腫瘍登録データベース使用申請として承認された、「子宮頸がん症例に対する手術療法・放射線療法(同時放射線化学療法を含む)・化学療法の成績における年齢因子の影響の解析」について審査を行った。

⑤徳島大学医歯薬研究部苛原稔会員より申請のあった、「反復体外受精・胚移植 (ART)不成功例、習慣流産例(反復流産を含む)、染色体構造異常例を対象とした着床前胚染色体異数性検査 (PGT-A)の有用性に関する多施設共同研究」について審査を行い、10月18日に審査結果を報告した。

[資料：倫理4]

(5) PGT-M 倫理審議会開催進捗状況について

**三上幹男理事**「この審議会の委員長候補の先生に受諾いただけるかどうかを交渉している。」

(6) NIPT 厚生労働省審議会報告について

[資料：倫理5, 5-1, 5-2, 5-3]

**三上幹男理事**「この会のメンバーである関沢明彦先生にコメントをお願いしたい。」

**関沢明彦理事**「NIPTの調査等に関するワーキンググループの委員として参加した。これは当初、厚生

労働省が言及していた検討会を開くための現状調査を行うワーキングであり、1月から2月までに調査結果を出す予定である。産婦人科、小児科から3名ずつで、あとは倫理や社会学の専門家が委員となっている。第1回では産婦人科から出生前検査やNIPTについて説明した。今後はすべての衛生検査所にNIPTを行っているかのアンケートを行い、また無認可施設を対象にアンケートおよびヒアリングを、またNIPTを受けた患者に対してもアンケートを行うことにしている。」

**久具宏司副議長**「結論が出るのにどのくらい時間がかかるのか。」

**関沢明彦理事**「定かではないが、ワーキンググループは2月頃に終了し、来年に入った頃に検討会がスタートすることになる。厚生労働省は来年6月の報告を目指したいと言っていた。」

**木村正理事長**「厚生労働省が何らかのルールを示す場合、二重規範にならないために本会の規約は来年6月の定時総会で消滅させるのも一つの考え方である。もう少し状況を見て判断していきたい。」

(7) PGT-A 臨床研究について

**三上幹男理事**「このPGT-Aの臨床研究は臨床研究審査小委員会で承認された。徳島大学の倫理委員会への申請は始まっている。一方で実施施設の認可を行い、認可された施設の倫理委員会で倫理審査を行ってもらう。これらの審査が完了したところで、臨床研究が1月くらいにはスタートすることになる。」

**木村正理事長**「この検討の進行状況について、関係者に情報を流すことはできないか。」

**三上幹男理事**「PGT-Aの委員会で説明を行い、施設認可の書類を送り始めているので、情報は流れていくと思う。」

(8) 日本医学会連合 研究倫理委員会より「研究発表にあたっての共通倫理ガイドライン（修正版）」に関する意見の提出依頼があった件について [資料：倫理6]

**三上幹男理事**「研究のカテゴリーを分類分けして、それに対応した倫理的手続きを示している。各学会が共通して使える指針のようなもので、これを使うかどうかは学会ごとに判断していくことになる。学術委員会、臨床研究審査委員会および理事の先生方から意見を募り方針を固めたい。」

**木村正理事長**「理念はともかく現実的に運用できるかどうかを検討いただき、意見をいただきたい。」

**三上幹男理事**「倫理委員会や倫理の小委員会が開催される時に、メディアがエレベーターホール周辺で待っていることがある。暗い中に立っていたりして事務職員が不安を感じることもあるので4階に立ち入ることをお断りするようにしたい。」

**木村正理事長**「エレベーターホールにお断りの表示するようにしたい。またメディアとの勉強会でもその旨を話しておきたい。」

9) 教 育 (関沢明彦理事)

(1) 会議開催

必修知識編集会議	10月23日(水)
試験問題作成委員会コアメンバー会議	11月15日(金) 【予定】
	11月19日(火) 【予定】
	11月22日(金) 【予定】

	11月26日(火)【予定】
第3回教育委員会	12月6日(金)【予定】
産科婦人科用語集用語解説集 改訂第5版打ち合わせ会	12月6日(金)【予定】

(2) 書籍頒布状況報告 10月31日現在

	前回常務理事 報告 10/4	～10月31日	合計
産婦人科研修の必修知識 2016-2018	1,073	7	1,080
産婦人科研修の必修知識 2016-2018 電子版付き	638	6	644
産婦人科研修の必修知識 2016-2018+例題と解説集	612	17	629
産婦人科研修の必修知識 2016-2018 電子版付き+例題と解説集	753	3	756
うち必修知識ダウンロード	979	2	981
用語集・用語解説集改訂第4版(書籍版)	612	11	623
用語集・用語解説集改訂第4版(電子版付)	789	14	804
うちダウンロード済み	407	0	407
専門医試験例題と解説 2016	1,306	9	1,315
専門医試験例題と解説 2017	616	12	628
専門医試験例題と解説 2018	1,185	13	1,198
専門医試験例題と解説 2019	971	16	987

(3) 2020年度専門医認定試験問題作成

各分野作成委員の試験問題作成の締め切りを10月25日に設定した。

未着の方については、事務局からお伺いし、作成委員会までには全問題を揃える。

(4) 産婦人科専門医のための必修知識について

原稿については1編を除き受領したので、順次学会ホームページにて意見を伺った。意見をいただいた原稿については編集会議において検討する。なお、意見のなかった原稿については、印刷に回す準備を行う。

(5) 用語集・用語解説集について

第5版発行に関して、12月6日に用語集関係の先生方と杏林舎で話し合いを行い、査読の簡便化などについて検討する。なお、用語集・用語解説集委員会としては、印刷所(杏林舎)ではなく、出版社での発行も視野に入れたいと考えているが、収入減が見込まれるため慎重に検討したい。

- 10) 地方連絡委員会 (渡利英道委員長) 特になし

## II. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

### 1) 広報委員会 (工藤美樹委員長)

#### (1) 会議開催

第2回広報委員会	2020年1月17日(金)【予定】
----------	-------------------

#### (2) JOB-NET 公募情報について

JOB-NET 事業報告 [資料: 広報1]

#### (3) ホームページについて

① ホームページアクセス状況について [資料: 広報2]

② MSD 株式会社のバナー広告について、2019年10月末日で掲載契約終了となった。

#### (4) HUMAN+/Baby プラスについて

① HUMAN+の販売数は約18万4千部である。アプリ版Babyプラスのダウンロード(DL)数は約27万件であり、DLに対する約7割が利用している。また、10月23日の毎日新聞にBabyプラスに関する記事が掲載された。 [資料: 広報3]

② 千葉市中央保健福祉センターより、就学時健診時に行う健康教育で、保護者に配布する資料にHUMAN+を紹介したいとの依頼があり、これに応諾した。 [資料: 広報4]

#### (5) 女性の健康週間事業

地方学会担当市民公開講座 開催予定について [資料: 広報5]

### 2) 災害対策・復興委員会 (永瀬智委員長)

#### (1) 会議開催

令和元年度 第3回災害対策・復興委員会	12月6日(金)【予定】
---------------------	--------------

#### (2) 台風19号での対応

10月12日に日本に上陸し、関東甲信越、東北などで記録的な大雨・暴風となり、広範囲で河川の氾濫・洪水等で甚大な被害を出した台風19号に以下の対応を行った。

##### ① 台風が上陸する前日(10月11日)の事前対応

- 永瀬智委員長より進路先の都道府県地方連絡委員へリエゾンとの協力依頼、PEACEへの入力依頼等を「台風19号に備えた対応のお願い」としてメール通知を行った。
- HPサーバが現状では千葉にあるため、停電でのHPダウンに備えた準備を行った。

## ②台風上陸後の対応等

- ・本会ホームページを災害モードへ変更し、被災した分娩取り扱い施設は大規模災害対策情報システムへ被災状況を入力するよう一斉配信を行った。
- ・浸水等で医療機関での被害が確認されたが、現時点で本会に医師派遣や物資等の要請はない。

- (3) 国立病院機構災害医療センターより「令和元年度第1回災害時小児周産期リエゾン養成研修(2019年11月3日～4日開催)」において津田尚武委員(久留米大学)に講師派遣の依頼があり、本会としてこれに応じた。 [資料:災害対策1]

吉田隆人事務局長「本会ホームページのサーバーについては、クラウドサーバーにして東京と大阪で二元的に管理するように準備している。10月末に完了予定だったが1か月遅れている。」

木村正理事長「迅速な対応を引き続きお願いしたい。」

## 3) 診療ガイドライン運営委員会 (生水真紀夫学会側調整役)

- (1) 診療ガイドライン産科編2020ならびに婦人科外来編2020について

- ①解説講演を第72回学術講演会において行うべく、各作成委員会と調整を行っている。
- ②伝達講習会を来年6月か7月に開催する予定で調整を行っている。

- (2) 診療ガイドライン産科編2023ならびに婦人科外来編2023について

- ①各作成委員会委員長ならびに委員について、選考を行い、2020版発刊後に2023作成委員会を立ち上げ、スケジュール等について検討する予定である。
- ②産科編については、本会事務局が、婦人科外来編について医会事務局が担当することで両会の事務局で調整を行っている。

- (3) 産科編委員会 (板倉敦夫委員長)

- ①「産婦人科診療ガイドライン-産科編2017」頒布状況について (10月31日現在)

	前回常務理事 報告 10/4	～10月31日	合計
書籍版	13,360	45	13,405
書籍版(電子版付)	2,484	8	2,492
うちダウンロード済み	2,112	3	2,115

- (4) 産科編評価委員会 (田中守委員長) 特になし

- (5) 婦人科外来編委員会 (小林浩委員長)

- ①「産婦人科診療ガイドライン-婦人科外来編2017」頒布状況について (10月31日現在)

	前回常務理事 報告 10/4	～10月31日	合計
書籍版	7,890	8	7,898
書籍版(電子版付)	2,037	9	2,046

うちダウンロード済み	1,798	2	1,800
------------	-------	---	-------

(6) 婦人科外来編評価委員会（若槻明彦委員長） 特になし

#### 4) コンプライアンス委員会（竹下俊行委員長）

竹下俊行委員長「日本医学会連合から、診療ガイドライン策定にかかる企業等との関係透明化に関する要請については、コンプライアンス委員会で検討を行う予定にしている。」

#### 5) サステイナブル産婦人科医療体制確立委員会（榎本隆之委員長欠席につき海野信也副委員長）

##### (1) 会議開催

第三回サステイナブル産婦人科医療体制確立委員会	12月6日【予定】
-------------------------	-----------

(2) 厚生労働行政推進調査事業より、医療機関のタスク・シフティング調査について協力依頼を受領し、これに回答した。 [資料：サステイナブル1-1, 1-2]

(3) 日本外科学会男女共同参画委員会委員長より協力依頼のあった「女性医師・研究者の妊娠・出産に対する意識とその実態に関するアンケート」を本会ホームページに掲載した。(11/1) [資料：サステイナブル2]

(4) 「第3回医師働き方改革の推進に関する委員会要旨」について [資料：サステイナブル3]  
海野信也副委員長「C1 およびC2 基準の運用について議論された。C2 基準については、各学会がC2の審査組織になるのかどうかを検討するとのことである。」

(5) 「地域医療構想の再検証」について [資料：サステイナブル4]  
海野信也副委員長「地域医療構想に関して、公的・公立病院の将来ビジョン（2025年）の再検証を求めるといった流れになった。そこで提示された9項目の分野の診療実績が少なく、6項目の観点から地域のなかのプレゼンスが小さい424病院が再検証の対象になった。このうち小児・周産期医療で再検証の対象となったのは1病院のみであった。また分娩取扱数が月間20件未満で類似近接病院がある病院は85病院、うち14病院は分娩取扱を中止していた。」

木村正理事長「これは今後公表されていくのか。」

海野信也副委員長「分娩取扱を20件という基準で一律に区分するのは、地域医療の議論の中ではあまりよい方法ではない。試算してみるとこうなった、というものである。」

木村正理事長「これらの数字は取扱に留意しながら各地域での議論に使っていただければよい。」

杉野法広委員長「国立大学病院長会議はどのようなスタンスなのか。」

木村正理事長「国立大学病院長会議では、小さい病院をどうするか議論には至っていない。」

杉野法広委員長「再検証の対象病院が公表されて怒っている地方公共団体の病院長もいるが、国立大学病院としては一概に否定するものではなくてこれからの集約化を考える上で注意すべきであるという意見もあるのでお伝えしておきたい。」

木村正理事長「たしかに国立大学病院長会議でも批判一辺倒ではなかった。」

## 6) 産婦人科未来委員会 (渡利英道委員長)

### (1) 会議開催

第72回学術講演会時指導講習会演者との打ち合わせ	10月28日(月)
若手委員会	11月8日(金)【予定】
第3回未来委員会	12月6日(金)【予定】

### (2) 若手委員会ホームページについて

リニューアルすべく、広報委員会とも調整しつつ作業を進めたい。12月理事会には見積書を提出する予定である。

### (3) POP2 について

2020年5月16日(土)17日(日)の2日間にわたり、東京・フクラシア東京ステーションにおいて開催の予定である。新規若手委員を含め、日程や内容について検討を行う。

### (4) サマースクールについて

2020年8月22日(土)23日(日)の2日間にわたり、千葉・かずさアカデミアパークでの開催を予定しているが、バスならびに東京駅近辺での駐車場の手当てが難しい旨、JTBより連絡があったので、千葉のバス会社などに依頼をしているが、駐車場が見つからない場合も含め検討を行いたい。

### (5) スプリングフォーラムについて

2020年3月21日(土)22日(日)の2日間にわたり、東京・東京大学 山上会館において開催の予定である。新規若手委員を含め、日程や内容について検討を行う。

### (6) 初期臨床研修産婦人科再必修化に向けて、会員がダウンロードし、教育資料として使用できるTIPS集を若手委員中心に作成中である。

### (7) 第72回日本産科婦人科学会学術講演会 指導医講習会について

初期臨床研修産婦人科再必修化に向けた取り組みとして未来委員会を中心に進めている。講演を日本医学教育学会理事 清水貴子先生に依頼し了承を得た。

### (8) 第72回日本産科婦人科学会学術講演会 サステイナブル委員会との合同企画について

時間外労働や自己研鑽などについて若手委員会でアンケート調査などを行うことを検討している。

## 7) リプロダクティブ・ヘルス普及推進委員会 (海野信也委員長)

### (1) 会議開催

第2回リプロダクティブ・ヘルス普及推進委員会	12月6日【予定】
------------------------	-----------

## 8) 医療安全推進委員会 (杉野法広委員長)

(1) 一般社団法人日本医療安全調査機構より、令和元年9月末時点の医療事故調査の現況報告、及び医療事故調査制度開始4年間の状況を受領した。 [資料：医療安全1]

木村正理事長「診療科別の数字は、例えば内科は循環器と呼吸器を足さなければいけないなど、気を付けてみる必要がある。」

(2) 一般社団法人日本医療安全調査機構 医療事故・支援センターより、1事例のセンター調査を行う為、本会より審議に協力して頂ける個別調査員3名の推薦依頼を受領した。部会長に晴山仁志先生(札幌マタニティ・ウィメンズJRタワークリニック)、部会員に千石一雄先生(旭川医科大学)と西川鑑先生(にしかわウイメンズヘルスクリニック)を推薦した。 [資料：医療安全2]

## 9) 公益事業推進委員会 (小林陽一委員長) 特になし

## 10) 子宮頸がん検診・HPV ワクチン促進委員会 (宮城悦子委員長)

(1) 効果的で持続可能な子宮頸がん・乳がん検診受診率向上の手法について、11月16日、子宮頸癌の予防に関する小委員会(川名敬委員長)、および女性ヘルスケア委員会 乳がん・子宮がん検診の普及に関する小委員会(加藤剛志委員)と協議の予定である。

(2) 10月18日に自民議員による第4回ワクチン勉強会が開催され、本会から、森定徹委員(慶應義塾大学)が出席した。 [資料：子宮頸がん1]

宮城悦子委員長「この勉強会の最後ではHPV ワクチンが議論になっており、今後も出席するようになりたい。」

(3) HPV ワクチンに関する本会の緊急声明について [資料：子宮頸がん2]

宮城悦子委員長「厚生労働省の副反応検討部会で、地方自治体が自主的に、HPV ワクチンの定期接種が続いていることを告知していることが発表された。しかしそれに対して被害者の会が地方自治体に取り下げを要望したとことが報道されたため、本会として緊急声明を出すことにした。」

藤井知行監事「非常によいと思うが、これは理事長の正式な声明なので、当該地方自治体に直接送るとか、マスコミに投げ込みをするようにした方がよい。」

(4) 文科省発刊の教材へのHPV ワクチン・HB ワクチンによるがん予防の記載追加の要望を、予防接種推進専門協議会とともに近日中に提出すべく準備を開始した。

以上

